

注意事項

1. 今大会は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、参加選手及び同行者・大会関係者以外の入場は全てお断り致します。 **※未就学児の入場は出来ませんのでご了承ください。**
2. 入場時、体温測定を行います。37.5度以上の方の入場は固くお断りします。
(選手の場合は同行者・同行者の場合は選手共に入場不可となります。)
アルコール消毒液も設置しますので、出入場の際は必ず手指の消毒をしてください。
又、体調不良等がある場合も辞退してください。
**尚、納入された参加費は、振込締切日以降大会開催2週間以内となった場合、原則返金しません。
また、自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大等により大会を中止した場合も、
旅費・宿泊費の補償はしませんのでご了承ください。**
3. 初回入場時に『大会参加事前健康管理チェック表』及び『新型コロナウイルス感染症に対する症状の問診票』を必ずご提出ください。(入場者全員提出のこと)
提出がない場合、場内へ入場することはできません。
大会参加事前健康管理チェック表は2週間前から大会当日までの体温測定や健康チェックをしていただく表となります。参加選手への周知徹底をお願い致します。
※大会直前の追加選手も該当しますので、2週間前から必ずつけてもらってください。
4. 選手及び同行者・大会関係者には初回入場時チェック表提出と引き換えに『入場許可証』をお渡しします。
再入場の際には必ず提示が必要となりますので、大会が終わるまでは常時携帯下さい。
『入場許可証』は2日目大会終了時に指定回収袋へ入れて帰るようにしてください。
5. 大会スケジュールは参加人数の調整等でBOX内の人数を変更する場合、当日でもレーン移動のお願いをすることがありますのでご了承ください。
6. 会場へは投球している選手及び同行者と次シフトの選手及び同行者以外の入場は出来ません。
投球終了した選手及び同行者は速やかに退場するようにご協力をお願い致します。
競技の進行状況により時間が前後する場合がありますので、アナウンスの指示に従ってください。
7. ボール拭きと筆記用具は各自で用意し、共有しないようにお願い致します。
(BOXにボール拭きの用意はありません)
8. ボウリング場内では、マスクの着用を徹底してください。
※フェイスシールド・フェイスガードの類ではなく、『サージカルマスク』の着用をお願い致します。

9. 競技中ハンドタッチ及び他選手との肌と肌が接触する行為は禁止致します。
又、競技中の会話及び投球選手への声援もお控えください。
10. 会場内においてもソーシャルディスタンスを十分保ち、接触や15分以上の会話はお控え頂くようお願い致します。
11. その他ボウリング場外においても『新しい生活様式（別紙）』に基づき、
新型コロナウイルスに感染しない為最大限の行動を心掛けてください。
12. 感染リスクの高まる『5つの場面（別紙）』にもくれぐれも注意してください。

日本ボウラーズ連盟 大会事務局

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

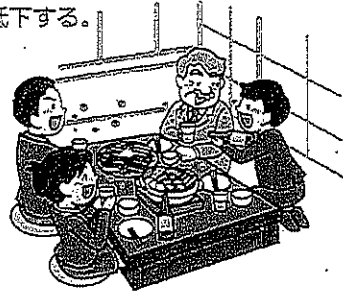
- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



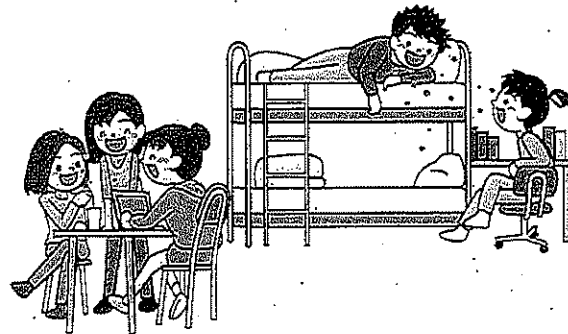
場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、屋カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

